

SNSというのは、していると楽しいな、てついついしてしまい
しまいニとも（つしま）がちです。後から冷静には、て消した
としても、記録は残ってしまいます。また、それを見て傷つけ
てしま、た人のババ（も残り）続けます。一度、たにかを投稿
するとき、友達とのスヌーズの会話ををする時は、深呼吸を
学びました。SNSでは顔も見えず、メッセージだと声もわから
ません。絵文字、スタンプをつけて勝手に思ひ込んでいるのを
悪くして、大切なことは実際に会って話をするのをバ
バけたりです。一番印象に残ったことは、いじめが理由
で賄賂金があることです。子どものころ遊びババでは、
て、大人には、て忘れていたとしても人を傷つけたりと
変わりはありません。たとえ高額を払ったとしても、相手
が受けたババの深い傷や、精神的苦痛など、お金で
治らぬものはたくさんあります。自分が気がつくたま
ところで傷つけたりという場合もあると思うので、気をつけ
たりです。ぼう観者を減らすのも驚きました。いじめ
をする加害者がいたとすれば、一番良いですが、被害者の子
の話を聞いてあげたり、先生・親に相談するのもとても大切
だと思います。被害者の子も人で抱えこまず、相談するのが
大切です。そうすれば、少しこそ気持ちが楽になりますかも知れま
せん。今日は、身近なテーマの話を聞くことが出来て良かったです。

甘い優やタレント、俳優など、有名な方も幼い頃からすでにいじめを受けたことがあると聞いたときに、誰にでも“いじめを受けた可能性”というものが存在していましたのでありました。また、文面だけでは誤解を生んでしまう可能性が高くなり、その誤解で大きな問題に発展してしまうと、元々子もないのですから、SNSだから文面で伝えどきには、ちゃんと相手に誤解させないように注意を確認してから送るよう心がけたいと思います。自分もSNS上で個人的に繋がってしまったことがありますので、今後、過去にあった過ちや失敗を思い返し、これからどうしたら受け入れられるかを考え起こせないようにしておけば大抵は防げたと思います。自分は自分で抱え込んでしまったせいかあるので、自分一人で抱え込まずに、友達や家族、先生などに相談するようにしたいです。SNSはとく名で何でも書き込めてはいけない、いきそればなし、まして消したところで書いたことは残ってしまうから、SNSだからと言って何でもすぐに載せることはやめなければならない、自分たゞ自分でなく、友達などにも声をかけ、問題が起きるようにならざりと想います。

私は自身もインスタグラムなどをSNSとしていて、普段から両親に気をつけて使はなさいといわれていたので、きちんと答えてから使っていましたが、今回の講演会で西見さんのお話を聞き、もっと行動に責任を持ちながら使っているべきだと感じました。自分に責任を持つと、SNSに間違った投稿をするとき、一生消えないということ、もしやたらその自分の発言、行動にモリ嫌な気持ちになる人がいるということを知りました。過去に、SNSでのひぼう中傷が原因で無くなってしまった命もありました。自分で思うこと、考えることは大切ですが、それを自分の中に閉じこめておくだけではなく、声に出してしまったり、指で打ってしようことが良くなかった」と鳥付がされました。SNSは楽するためにあるものだと私は思っています。でも、それは一步間違えると楽しいSNSではなく、他の誰かにとっては恐怖のSNSにもなり得るということだ"と思いま。これからもっとSNSを使う人が増え、その分SNSの使い方を問えてしまう人も増えると思うので、そんな人達にモリの講演会を聞いて、正しいSNSの使い方を知りて欲しいと思います。

西見誠一記者 「SNSといじめ」 2022年（令和4年）1月26日（水）

私が今回、西見さんのお書きを聞いて見たことは、SNSは使い方を間違えると、嫌なことに遭遇する危険性が高くなると言ふことです。例えは「けしからん」があたるわけじゃないのに、自分が元にあげた言葉が相手のことを見つけてしまったり、不快な思いにさせてしまうことがあるというわけです。お書きして下さったように、SNSは簡単に重い気持ちでどうやらすることができる場所です。だから誰でも、簡単に「けしからん」として見つけたいという思いがakteでは強いと感じました。以前、私が「SNSで見たところうなづいていたが、私はそのことについて印象を抱きましたが、コントラルか思ふようを感じてはなく、むしろアニメや向山がえっていました。こういうところから人々はSNSのpart(いいめ)で命を落したり、ひどくなってしまったりおもしろいあるのだと見ています。者はいいめをいふが、相手に直接いふことは言ったり、やつたりしていたと思いまが、ネットができてから、相手に直接言わなくて、ひどいことを書けたり、それをかくすとかができるようになってしまったつまり、誰かがいいめのターミナルにある可能性があるし、いいめの側にも簡単にあることができる。それを土に育う人が見て、意見を言い合って、いいめの側、いいめを見ていいめだけの人気が増えて、いいめにたましくて誰もかが関わることが一つと「うなづいていたが、そのいいめを止めようとしたときあるとうを私は見たことがありました。「そんなことを言って向の意味があるの?」や、「誰もかがそんなことで笑顔になれると思う」と言った頃のあのうなづいている人がいて私はうなづかれていた。だからいいめを思うことがあるかもしれないけど、うなづくことは違うと私は思いました。

まず最初に、アカウントが特定をするのにかかる時間が約1時間しかかかりないというか、もとがかかると思っていたので、とても驚きました。また、特定するのに誕生日や、住んでいる都道府県などを言葉するのは分かっていたけれど、文章の書き方のセセセセをさすといいうのが、荷驚いたりと、本当に1時時程で特定することができるのか、疑問に思いました。また、西見記者が、「取材をする時にかけていることは何ですか」と質問された時に「まず、相手がどのトントドであっても相手のハートに寄りそって情報を聞く」というのが、とても立派な心がけをしていると思った。今後はその事を意識して生活していくことを思いました。また、いじめにについてで勉強になったことは、いじめは先生から見たら、一時的な生徒のトラブルに見えることが多く、いじめとは気づかないということです。この言話を聞いて、いじめが起きていたら見て見ぬフリをするのではなく、先生に相談することが大切だと改めて思いました。また、いじめはぼうきん者を裏切って、何もせずに見ているだけだと、害者と同じといいうのがなるほどと思いつ、もしいじめが起きていたらぼうきん者にはならないようにします。

いじめは自分の身近にあるものだと改めて知りました。私もSNSをしているので危険なことは避けようと思いました。何かSNS上にあげたら2度と消えないことを心において使います。

まだ私はいじめられたり、いじめたり、いじめられていた人を見たことがありません。私がもしいじめを見たらすぐ先生や親に話をしたいと思います。そして何気なく友達に送ったものが相手とのすれ違いで傷付けてしまい今からトラブルが起きたこともあったうなので気をつけたいです。誰が受けとっても嫌な気持ちにならないかしらかりと見直しすることが大切だと学びました。いじめを受けたいがある人をこれから増やすいためにも、一人一人がSNSの使い方を見直し、相手を思いやろことが大切だと感じました。

今日学んだことを頭に入れながら段々と残り少なくなった中学校生活を楽しみたいと思います。

今回の講演を通して、普段当たり前のようになつて
いるSNSの怖さを再確認することができました。

一度SNS上にあげてしまった画像や情報は二度と
消すことはできないし、何年経っても残ってしまう事が
分かりました。企業や就職の時に見られたり、特定
できてしまうことはSNSのこわさでなんとかして始め
てはいけないと思いました。ネットでいじめをしていて
も周りの大人に伝わりにくくて、性格上「実はいい
めいでいる」という事が起らうないよう先生や親に
相談しようと思いました。ネットでいじめられた人た
ち、本当にいじめられた被害者がうつたえて、大金を
請求できるとして、軽はずみに言葉を発して、相手を
傷つけるのはいけないことだし、後悔症まで残るおそれ
を学びました。結果、残った心の傷は治す事
ができるまで1人で悩んでいた子がいたら必ず声を
かけようと思いました。今はネットは便利な物として
たくさん的人が利用しているけど、その裏に苦しんで
いる人がいると思うと他人事ではなく自分がされて
いる側になつて考えたいと感じました。これから少しでも
いじめられる人が減るようになればいいなと思いました。